

大通の雑踏の中に佇む少年啄木 啄木の目に今の時代はどう映っているのでしょうか

新しき明日の来るのを信ずといふ
自分の言葉に
嘘はなけれど

啄木



北風に立つ少年啄木像は、昭和52年9月、丸藤創立者の古希を祝い建立されました。

台座には「昔この辺りは、不来方城菜園の跡地である。中学生の頃の啄木にとって、この畦道と、城址は詩情の泉であった。与謝野鉄幹、晶子夫妻の魅力にひかれ、希望に胸ふくらませて、はげしい北風に立向かう彼の姿である。」と書かれています。明治19年に岩手郡日戸村（現在の玉山区日戸）に生まれた石川啄木。わずか26歳でこの世を去りました。4月13日の命日には、啄木の父・一禎が住職を務めた玉山区の宝徳寺で法要が営まれます。

今年、石川啄木没後100年。この先も啄木が愛され親しまれ続けるようにと色々な記念行事が開催されることになっています。

